発表番号　１９

Ⅰ　観音寺市立一ノ谷小学校　教諭　藤田　直代
Ⅱ　県立坂出高等学校　教諭　田所　博

令和元年度　教育実践優秀教員の取組の中から

Ⅰ　学ぶ楽しさ、分かる喜びを実感できる授業づくり
～　主体的・対話的に学び合う国語科書写学習を通して　～

技能的側面が強く手本の字をまねることが上手な児童が高く評価されがちな書写学習において、文字を書くことが苦手な児童も「楽しい」「分かった」と感じられ、主体的・対話的に学ぶことができる授業をめざし、指導方法の改善を図った。

１　実践の具体（第２学年「文字の中心」「文字の形」における実践より）

①　「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を味わわせる問題解決的な学習過程の工夫

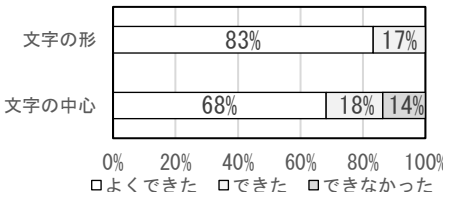
「つかむ」「考える」「高める」「生かす」という問題解決的な学習過程を設定し、字形の整っていない文字の提示をしたり、分解文字や字形確かめシート等を活用したりすることで、主体的に自らの課題や文字を書くコツについて考えることができるようにする。また、「できた」と感じ、日常生活に生かそうとする意欲を高めるために、相互評価の場や自分の名前の文字について考える場を設定する。

②　書字活動を支える取組

「グー、ペタ、ピン、トン」の合い言葉による様々な場面での姿勢指導、書写タイムでの基礎・基本の練習、手軽に毛筆書写ができる水書コーナーの設置を行う。

２　実践の成果

アンケート結果によると、ほとんどの児童が各単元前よりも上手に書けたと答え、達成感を感じている様子が見られた。操作活動を積極的に取り入れ、児童自らが文字を整えるための「原理・原則」と、上手に書くためのコツを見つけることで、意欲的に授業に参加し「書いてみたい」という意欲も高まった。



Ⅱ　吹奏楽部における効果的な音程の合わせ方を考察する
～　オクターブ・ユニゾンに特化したスコアリーディング　～

吹奏楽という音楽形態は十数種類の管弦打楽器を擁しており、３０段を超える五線譜から成る総譜（スコア）から、全ての音を頭で管理し指導することは簡単ではない。また昨今、音楽を専門としない教員や、吹奏楽を経験したことのない教員が吹奏楽部の指導を任されることもあり、生徒数の減少や偏りのある楽器編成等、現場での指導は困難を極めていると考える。

私は、これまで吹奏楽部を指導するにあたり、「音程が合わない」という悩みをずっと抱えてきた。どうすれば美しいハーモニーを実現できるのか、どうすれば効率的に合奏全体のサウンドを向上させることができるのか。

◆　実践の具体

今回の発表では、以下の２つの取組等について、実際に音を鳴らしながら紹介します。

①　オクターブユニゾンに特化した音程合わせ

吹奏楽は極めてユニゾンの多い合奏形態です。ユニゾンが整うと合奏全体のサウンドが澄んだ印象に変化します。ここでは、各オクターブに分割してユニゾンを整えることを提案します。

②　そのために必要な移調楽器の読み替えについての提案

移調楽器の混在がスコアリーディングを難しくしているのではないでしょうか。
「～管」という範疇ではなく、「度数」で整理する読み替え方法を紹介します。